

1. 研究の背景と目的

これからの日本のまちづくりは、高密度な都市開発ばかりでなく自然環境や生態系の保全、活用について考えることが必要である。また、その地域の住民が自然環境に興味を持ち、その保全に参加することが大切である。それを実現するためには人々が自然に触れられるようにするべきである。近年では自然の中で遊ぶことによって自立した思考や強い体、自己表現力を育成する保育園もつくられている。

見沼たんぼ地域は東京から電車で1時間ほどで来ることが出来る緑地帯である(12.6 km²)。都心に近いこの地で、治水機能を保ちながら環境への関心を高めるための教育の場をつくるのが本研究の目的である。

2. 対象地



さいたま市緑区
面積：26.44 km²
人口：126,754 人
人口密度：4,794 人/km²
世帯数：54,050 世帯
(令和元年 10月1日)

対象地は見沼たんぼにある芝川第一調節池の右岸である。市街化調節区域、景観保全区域に指定されている。

3. 現状

3-1. 土地利用及び活用の現状



それに対して右岸は自然保護を中心としつつも、人が立ち入ることを可能にして、レクリエーションや教育に利用する方向性とされている。

3-1. 現在の状況



- ①越流堤：水の勢いで流れないように蛇籠で作られている。調節池に向かって段差がつくられていて、人々は水辺に最も近づくことが出来る。
- ②多目的広場：植物でおおわれていて広場としての空間ではない。
- ③外周の砂利道：ウォーキングやランニング、サイクリングに使われている。
- ④右岸：調節池の掘削工事が始まっている。現在一般人が立ち入ることはできない。

3-2. 既往計画

①H10年時の計画



平成10年時の完成イメージ

平成8年2月から平成10年3月にかけて「芝川第1調節池環境整備検討委員会」が組織され、環境整備計画が検討された。左岸では工事が終了し、ほぼ左図の通りに完成している。

②見沼新時代

H15年に市長の名で公開された、見沼たんぼの将来や「セントラルパーク構想」に関する提言書である。その具体的な方策のひとつとして、人と自然のふれあい空間や市民が多様な目的で使うことができるオープンスペースを提供することが記されている。

3-4. SWOT 分析

S ・動植物が数多く生息 ・治水能力が高い ・東京から最寄駅(東浦和)まで1時間程度で移動可能	W ・親水空間が少ない ・越流堤から水面の近寄れるが蛇籠の上を歩くことになるので安全ではない ・自然に対する意識を高める場がない ・多目的広場が利用されていない
O ・見沼たんぼの保全・創造・活用の基本方針が定められている ・人口が増加傾向にある(推計によると2030年頃まで)	T ・全国で水害が増加している ・将来は人口減少すると予想されている

5. 提案

5-1. コンセプト

遊び、学ぶ

調節池として治水機能を維持しつつ、この地を訪れた人が自然と様々なふれあいをする事が出来、自然に対する興味関心を高められる自然公園としての利用を提案する。

学びとは机に向かって参考書とにらめっこするだけではない。何か新しいことを知る、体験することも大切である。自然の中で時には一人で、時には様々な人と交流をしながら遊ぶ中で、新たな発見があり、学びとなる。

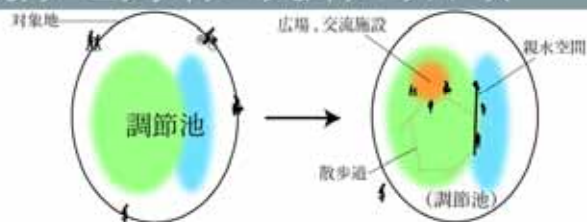
人々とふれあえる空間は主に交流施設と広場であり、交流施設ではワークショップ、広場ではマルシェなどの活動が行われる。

水辺空間では水に浅瀬で直接ふれたり、腰を降ろして周囲を眺め心を休められる。調節池には広々とした緑や大空が広がり、ここならではの空間で遊びながら、地域の自然や歴史を学ぶことが出来る。

5-2. 貢献できる SDGs

- 4 質の高い教育を達成することで、自然に関する質の高い教育を達成できる。
- 11 大都市圏における自然を生かした空間づくりにより、住み続けられるまちづくりに貢献する。
- 14 自然環境への関心を高め環境に対して悪影響を与える行為を抑制することで、海や陸の豊かさを守ることにつながる。

5-3. ゾーニングイメージ&イメージパース



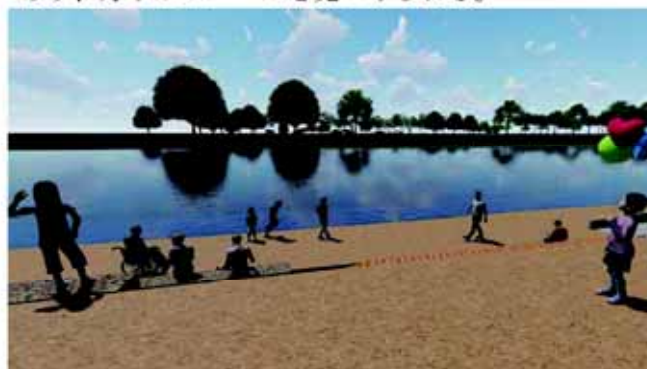
左岸では水辺の自然と関わるのが困難であるが、調節池としての機能を保持しつつ親水空間や自然の中を歩ける散歩道を設けることで、それを可能とする。また、交流施設や広場では来訪者による交流、レクリエーションなど、さまざまな活動が行われる。



【②散歩道】木々の間を通ることが出来る所があり、視界が緑に囲まれる。この地には視界が開けている場所が多いため、それとの差を楽しめる。



【①交流施設】2階には丘を通じて直接行くことが出来る。その丘には幾つか腰を下ろせるところがあり、好みのスペースを見つけられる。

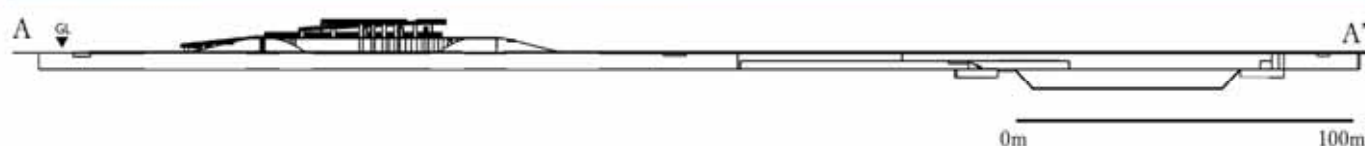


【③水辺空間】水面と同じ高さまで降りることが出来、水を身近に感じることが出来る。階段の隣に座れるスペースがあり落ち着いた雰囲気でも過ごすこと

5-4. 配置計画図



5-5.AA' 断面図



6. まとめ

この提案によって、調節池の機能を保持しつつ見沼田んぼの魅力を発信し、人々の見沼田んぼの自然に対する関心を喚起することで、見沼田んぼの環境を生かした保全と活用に寄与する。